

米作り 知った今こそ

甲賀市立甲南第三小学校

食と農理解深めて



児童らは総合的な学習の時間で、これまでに田植えや稲刈りなど年間を通じて米作りを学んできた。今回、栽培指導などで協力してきた中野さんが、雑誌「地上」を参考に「宮の農業の今昔」と題して授業をした。

JAこうか理事が生きた授業

と昔の作業風景を写真で比較。地域住民と農業の関係性や機械技術の進歩も伝えた。

米の年間消費量や食料自給率、食品ロス問題なども提起。「農業の苦勞や、食べたくても食べられない人がいることを知り、みんなには一生懸命食べて成長してほしい」と語りかけた。

児童らは熱心に耳を傾け「食料自給率が低いことを初めて知ってびっくりした」「ご飯を残さないようにしよう」などと話した。

中野さんは「米作りを体験した上で話をすることで、農業をより深く考えてもらえたと思う。授業を通して食べ物大切にすることを伝えてもらいたい」と話した。

熱心に話を聞く甲南第三小の児童ら

甲賀市甲南町野川にある市立甲南第三小学校で11月下旬、JAこうかの理事を務める中野和彦さんが、5年生を対象に同地区の今と昔の農業について出前授業をした。

つなごう次世代へ

学び合いも触れ合いも 楽しさおいしさ伝えたい

JAレーク滋賀中主支店運営委 多彩な催しで交流

JAレーク滋賀中主支店管内の生産者団体や地域住民、女性部などの代表で構成する支店運営委員会はサツマイモを使ったさまざまなイベントで地元園児と触れ合い、農の大切さを伝えている。

サツマイモの植え付け、収穫体験に始まり、11月中旬には昔ながらの落ち葉やもみ殻を使った焼き芋パーティーを開催。園児は委員会メンバーから、十分火が通ったかの確認方法などを学んだ。

その後、ほくほくの焼き芋に舌鼓を打った。園児はやけどしないように焼き芋を食べる方法やおいしい焼き芋の見分け方を教え合うなど、互いに楽しく学びを深めた。

同委員会は今後、園児が体験について描いた絵を支店文化祭で展示するなど、活動をさらに進めていく。白井孝史支店長は「子どもが笑顔になれば、地域全体が笑顔になれる。これからも農業をテーマに、地域のつながりを深める活動に協力していく」と話した。



を深める活動に協力した。子どもたちに出來たての焼き芋を見せる委員会メンバー (レーク滋賀)